

© ACGプレスリリース
- 展覧会開催のご案内 -

吉岡千尋「sub rosa」 Chihiro Yoshioka: sub rosa



SUB ROSA
油彩、金属粉、白亜地、キャンバス | 194 x 162 cm | 2016

アートコートギャラリーでは、この度、吉岡千尋による個展を開催いたします。

吉岡は1981年に京都府に生まれ、2006年に京都市立芸術大学大学院・油画専攻を修了しました。大学院在学中の2005年には新進作家の登竜門である京展（京都市美術館）で市長賞を受賞し、2009年にはVOCA展（上野の森美術館）に参加、さらに2014年の京都府美術工芸新鋭展（京都文化博物館）では京都新聞社賞を受賞するなど、着実にキャリアを積み重ねながら京都を拠点に制作活動を続けています。

実際に目にし記憶した風景、小説の文章から想起されるイメージ、スクリーンに映し出された映画の一幕など、吉岡は近年、見る（あるいは読む）ことを通して自らの存在が外の世界に触れるときに立ち現れる儂くも印象的な光景を絵画制作の主題としています。

2012年より吉岡が継続的に取り組んでいるモチーフである薔薇とその周囲を描いた《rose》を中心として、アルハンブラ宮殿の天井装飾を仰ぎ見た経験に着想し、紅葉した樹木と空の仰瞰風景を描く《muqarnas》(2014-)、イタリア滞在中に出会った宗教画を模写することから展開する《mimesis》(2015-)、本展はこのような3シリーズの新作・近作によって構成されます。

《rose》、《muqarnas》では、作家が自身の眼と身体を通して受容し、客観的現実と主観的意識の間で醸成された光景が、記憶の濃淡や知覚の不確かさとともに塗面へと置き換えられます。また、《mimesis》においては、テンペラやフレスコで描かれた宗教画の模写を重ねることによって絵画の表層と構造とを往還しながら、原画の描き手や度重なる修復、古典技法による制約など、他者や外的条件によって幾重にも媒介されたイメージに潜む過剰と欠落をあぶり出すことが試みられます。

吉岡の場合、「描く」という行為は自身の主観や感覚を際立たせるやり方ではなく、知覚・記憶された事物の印象を、なるべくそのままの姿と質感で画布の上に再現すべく「写し描く」という姿勢に基づいて進められます。画面に引かれたグリッドを拠り所として、自らの位置と描かれる対象との距離を慎重に確認しながら、白亜地や金属粉を定着させた下地の上に即興的な筆運びでイメージを再構築する——。その過程において、モチーフへの介入は、記憶の不確かな部分に対する「補足」や「省略」、あるいは構造上の問題から未確定にせざるを得ない領域の「塗り残し」といった控えめな身振りとして実現されます。それによってイメージの曖昧さは取り除かれることなく画面に留保され、見ることについての本質的な問いかけ、果てしない空間の広がりや過ぎ行く一瞬、積み重ねられた時間に宿る精神性など、知覚では捉えきれない要素をも包摂する影のように、儂さと緊張感が同居する独特の佇まいを生み出します。また吉岡は、しばしば同じモチーフを繰り返して描きます。脳裏に留まる不完全なイメージは、多面的に描き出されることで互いに補い合い、親和的な情景となって鑑賞者の内部に映し出されます。

本展では、「見る」そして「描く」という行為が本質的に抱える「伝わらなさ」そのものの中に、触知し得ない無限の時空間や絵画をめぐる問いをつなぎとめ、他者性を受け入れながら世界と密やかな交感を結ぶ可能性を探る吉岡作品の魅力や、各シリーズ間の差異と共通点を通してご紹介します。

▷ sub rosa：ラテン語。「薔薇の下で」の意。「秘密に、内密に」の暗喩として用いられる。
会議室の天井中央に守秘を誓う象徴として薔薇の花を吊るした古代ローマの習慣、さらにはギリシャ神話で薔薇が沈黙の神ハルポクラテスに贈られたという故事に由来する。

【展覧会概要】

展覧会タイトル：吉岡千尋「sub rosa」 Chihiro Yoshioka: sub rosa

会期：2017年7月7日 [金] - 8月26日 [土] *日・月・祝 休廊/8月11日[金]-15日[火] 夏季休廊

会場：アートコートギャラリー 〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F

開廊時間：11:00 - 19:00（土曜日、7月25日[火]は17:00まで）

作家在廊日：7月7日[金]、7月8日[土]

◆ 関連イベント 7月22日[土]

14:30 - 16:00・・・対談 [中井康之(国立国際美術館学芸課長) × 吉岡千尋]

16:00 - 17:00・・・レセプション

* 対談は要予約 (Email: info@artcourtgallery.com または Tel: 06-6354-5444) * 参加費無料

油彩、蜜蝋、金属粉、キャンバス | 53 x 45.7 cm | 2016

主催：アートコートギャラリー（株式会社八木アートマネジメント） | 協賛：三菱地所株式会社、三菱マテリアル株式会社、三菱地所プロパティマネジメント株式会社

【お問い合わせ】アートコートギャラリー [担当：清澤・灰田] ※ビジュアル資料ご希望の方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

〒530-0042 大阪市北区天満橋1-8-5 OAPアートコート1F TEL:06-6354-5444 FAX:06-6354-5444 E-mail: info@artcourtgallery.com Website: www.artcourtgallery.com



muqarnas 17

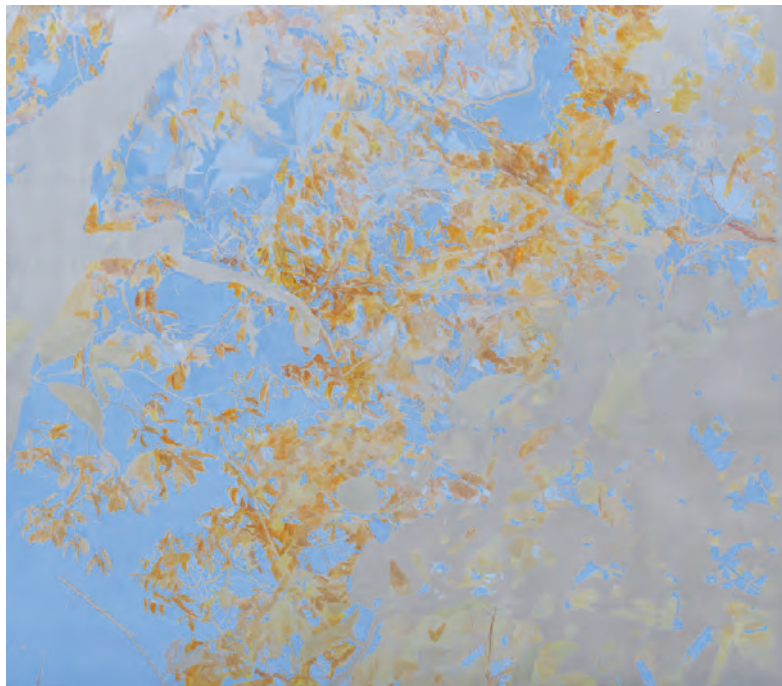
© ACGプレスリリース
— 展覧会開催のご案内 —

吉岡千尋「sub rosa」 Chihiro Yoshioka: *sub rosa*

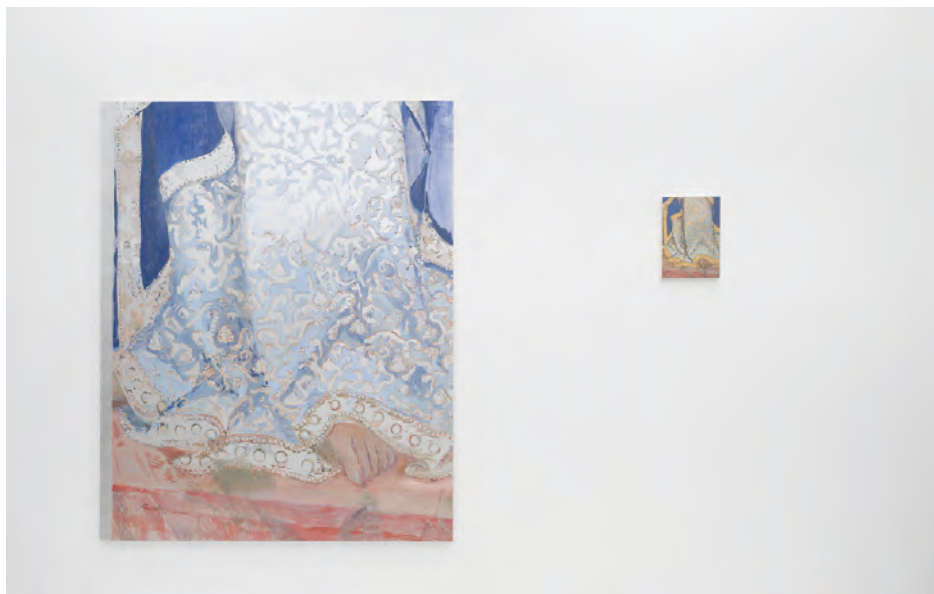
◆ 参考作品資料



sub rosa 2
油彩、金属粉、キャンバス
145.6 x 97.2 cm
2017



muqarnas
油彩、蜜蝋、金属粉、白亜地、キャンバス
160.4 x 184.4 cm
2014



(左) ***MIMESIS I-2***
油彩、金属粉、白亜地、キャンバス
160 x 130 cm
2016
撮影：Tomas svab



(右) ***mimesis I***

mimesis I
テンペラ、金箔、白亜地、寒冷紗、パネル
29.9 x 21.2 cm
2015

© ACGプレスリリース

吉岡千尋

- 1981 京都府生まれ
2006 京都市立芸術大学大学院美術研究科修士課程絵画専攻油画修了

| 個展 |

- 2016 「skannata 模写」アートスペース虹、京都
2014 「muqarnas」アートスペース虹、京都
2013 「一幕の絵、小説の建築」アートスペース虹、京都
2012 「skannata」アートコートギャラリー、大阪
2010 「ガラスのライオン(非在の庭)」アートスペース虹、京都
2008 「吉岡千尋展」O ギャラリー eyes、大阪 [’07]
2007 「吉岡千尋展」O ギャラリー UP・S、東京

| 主なグループ展 |

- 2017 「OPEN STUDIO×5」ウズイチスタジオ、京都
「京展 2017」京都市美術館 [’05 〈市長賞〉]
「FACE展 2017 損保ジャパン日本興亜美術賞展」東郷青児記念 損保ジャパン日本興亜美術館、東京
「heART〜春和景明〜」インターコンチネンタルホテル大阪 20Fロビー、大阪
2016 「国際現代グラフィックアート展 メキシコ、ブラジル、日本」パハカリフォルニア州立自治大学、メキシコ
「境谷小学校作品展」京都市立境谷小学校 [’15, ’14, ’13, ’12]
2015 「麝香の匂い」TALION GALLERY、東京
「琳派400年記念新鋭選抜展 ~琳派の伝統から、Rimpaの創造へ~」京都文化博物館、京都
「カレンダー for 2016」アートスペース虹、京都 [’13, ’11, ’09]
「コレクション+『さみどりの時』」アートスペース虹、京都
「Studio Exhivisit 2015」ウズイチスタジオ、京都
2014 「漆喰シート×ドローイング」京都市立芸術大学小ギャラリー、京都
「ACG eyes 6: 二次元地層学」アートコートギャラリー、大阪
「京都府美術工芸新鋭展 ~京都国際現代芸術祭2015への道~」〈京都新聞社賞〉京都文化博物館、京都
2013 「TSCA Rough Consensus展」ホテル アンテルーム 京都、京都
「KYOTO STUDIO」京都市立芸術大学ギャラリー@KCUA、京都
2011 「歌とピクニック in Tamba」うぐいすの森、兵庫
「gradation」2kw gallery、大阪
2010 「オープンスタジオuzumasa」ウズイチスタジオ、京都
2009 「feat.huntorama salon show」Muzz Program Space、京都
「Truth of the Multilayer」同時代ギャラリー、京都
「VOCA 2009 現代美術の展望新しい平面の作家たち」上野の森美術館、東京
「佐々田南緒 | 吉岡千尋」sowaka、京都
「4つのアトリエ」ウズイチスタジオ、京都
「FIX 展」元立誠小学校、京都
2008 「和田典子 | 吉岡千尋」Yuka Sasahara Gallery、東京
「太秦出張仕事」アートスペース虹、京都
2007 「太秦仕事」ウズイチスタジオ、京都
2006 「Tourbillon IV」O ギャラリー eyes、大阪
2005 「drawing2005」Gallery SOWAKA、京都
「市場」MORI YU GALLERY、京都
「錦市場でフィレンツェ・トスカーナを捜そう」錦市場、京都
「ART UNIV.2005」キャンパスプラザ京都、京都
「Art Camp2005」Gallery Yamaguchi kunst-bau、大阪
2004 「まばたきfocus」沖縄プラントビル2、沖縄
「『主』と『客』」同時代ギャラリー、京都

| レジデンス |

- 2011-2012 境谷小レジデンス、京都市立境谷小学校

| パブリックコレクション |

京都市立芸術大学 / 京都銀行